

旭川市の公民館に関する市民アンケート調査

集計結果

目次

このアンケート調査について	1
1 回答者数・回答率	3
2 調査項目ごとの集計結果	
（1）問1 あなたのお住まいの地域を選んでください。	3
（2）問2 あなたの性別を選んでください。	3
（3）問3 あなたの年代を選んでください。	4
（4）問4（1）過去3年間で利用したことがある施設はどこですか。 また、どのくらい利用していますか。（いくつでも）	4
（5）問4（2）主な活動内容は何か。（いくつでも）	6
（6）問5-1 公民館では、社会教育法により、目的によっては部屋を使用できない 場合がありますが、これについて、どうお考えになりますか。	6
（7）問5-2（1）「利用できない場合があってもよい」を選んだ理由	8
（8）問5-2（2）「利用できない場合はなくてよい」を選んだ理由	10
（9）問6-1 これからも全部の公民館を公民館のまま維持するほうがよいか、今あ る公民館の一部又は全部を他の集会施設と同じような使い方ができる ように見直す方がよいか、どれがよいとお考えになりますか。	12
（10）問6-2（1）「全部の公民館」「維持」を選んだ理由	15
（11）問6-2（2）「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由	17
（12）問6-2（3）「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由	19

このアンケート調査について

1 調査の趣旨

公民館の位置付けの見直しについて検討するに当たり、施設利用者に拘らず、できるだけ広く市民の意見を聴き、議論の参考とするため、調査を実施しました。

2 設問の考え方

公民館の位置付けの見直しに関する意見（問5-1・問6-1）に対し、それぞれの回答理由（問5-2・問6-2）を聴き、また、意見の内容に何らかの特徴的な傾向が見られるかを確認するため、居住地域別（問1）・男女別（問2）・年代別（問3）・施設利用有無（問4）を設問しました。

3 調査結果と分析

問1～問3（居住地域別・男女別・年代別）

回答者の居住地域別・男女別・年代別それぞれの選択肢とも、調査対象者の総数と同様、おおむね均等な回答率となった。（図1、図3、図5）

分析

どの設問も均等な回答率となったことから、アンケートの結果は広く市民全体の意見を反映していると考えられる。

問4（施設利用有無）

・集会施設を「1度でも利用あり」という回答と「利用なし」という回答が、ほぼ半分ずつを占めた。（図7）
・年代別では50代までが「利用なし」の回答者数が大きく上回っているが、男女別では差はなかった。

分析

集会施設を利用したことが「ある」・「ない」の両方の立場から均等に公民館の位置付けの意見が出されていると考えられる。

問5（1 公民館の室利用制限・2 選択理由）

・回答者の74.3%が「目的によって部屋を利用できない場合があってもよい」と回答した。（図14）
・地域別、男女別、年代別、利用施設別のそれぞれの区分で、「目的によって部屋を利用できない場合があってもよい」が最も多い回答となった。（図15・図16・図17・図18）
・選択理由では、地域別（図20）、男女別（図21）、年代別（図22・40代を除く）、利用施設別（図23）のいずれでも「（社会教育法に基づく）学習施設（として）維持（すべき）」が最も多い。
・一方、図14の回答者の14.0%は「目的によって部屋を利用できない場合はなくてよい」という回答であり、その理由としては、全体（図24）、地域別（図25）、男女別（図26）、年代別（図27）、利用施設別（図28）のいずれでも「（どの施設も）同じ使い方ができた方がよい」という回答が最も多い。

分析

公民館における社会教育法に基づく室利用の制限は、広く市民に肯定的に受け入れられており、公民館の位置付けに関わらず、このような制限を必要とすることが求められていると考えられる。

問6 (1 公民館の位置付け・2 選択理由)

- ・最も多かった回答は、公民館の位置付けのまま「全部維持」(36.9%)という回答で、次いで「全部見直し」(27.8%)・「一部見直し」(22.8%)の順となった。(図29)
- ・問5-1で、目的によって部屋を利用できない場合が「あってよい」(74.3%)・「なくてよい」(14.0%)という回答の中でも、「全部維持」,「全部見直し」,「一部見直し」の意見が分かれた。(図30)
- ・選択理由では、「全部維持」という回答(図32)で「長年親しまれている」と「団体活動優先の場として維持」という回答が多く、ほぼ同数であった。
- ・「全部見直し」という回答(図37)では、「公民館をより幅広い目的で使用」という回答が最も多く、次いで「公民館事業を他施設でも実施」,「老朽化したときに他施設を利用」の順だった。
- ・「一部見直し」という回答(図42)では、「(地域に)公民館しかないなら幅広い目的で使用」という回答が最も多く、次いで「公民館は必要だが幅広い使用(ができる)の施設を多く」,「公民館を全部見直すのは性急」の順だった。

分析

図29の最も多かった「全部維持」の回答から、今後も公民館は必要と考える市民が多いことが分かる。

一方で、「全部見直し」又は「一部見直し」という回答(「全部維持」を望んでいない回答)は50.6%となることから、結果として現在の公民館のあり方について何らかの変更を求めている回答者が多いということもできる。

その内容としては、幅広い目的での使用や公民館事業を他施設でも実施という回答が多いことから、公民館の建物という「ハード」の面よりも、公民館の利用や公民館事業という「ソフト」の面で見直しを求めていると考えることができる。

旭川市の公民館に関する市民アンケート調査 集計結果

1 回答者数・回答率

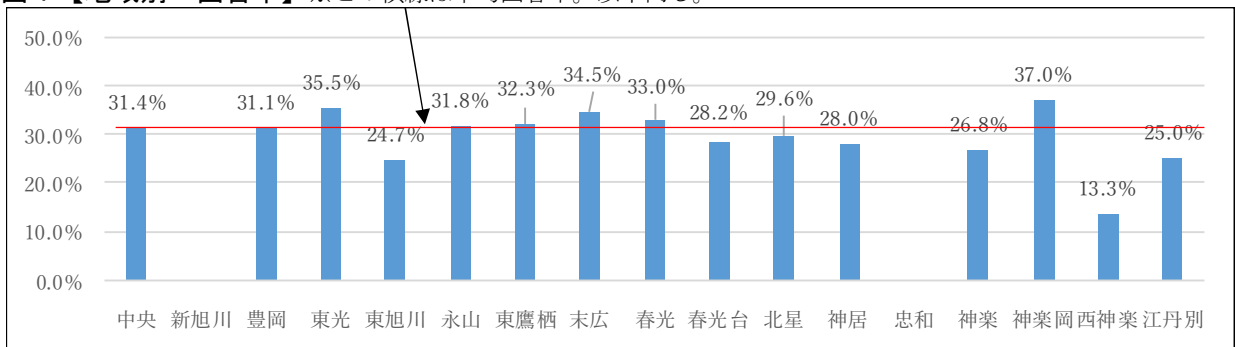
(全 体)	総数 2,270人	回答者数 719人	回答率 31.7%
(直接郵送分)	総数 2,133人	回答者数 634人	回答率 29.7%
(市政モニター分)	総数 137人	回答者数 85人	回答率 62.0%

2 調査項目ごとの集計結果

(1) 問1 あなたのお住まいの地域を選んでください。

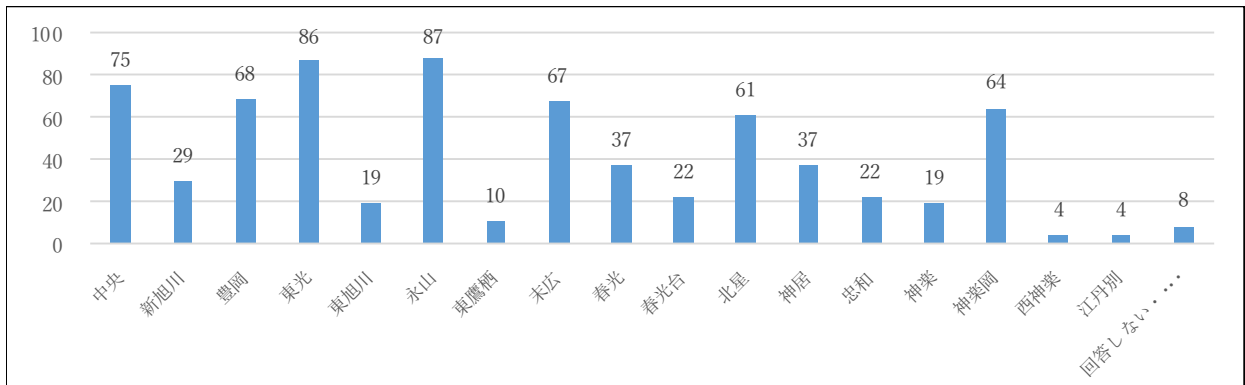
図1のとおり、西神楽地域のみ回答率が13.3%とやや低かったものの、これ以外の地域では全体の平均回答率31.7%に対しておおむね均等な回答率であった。

図1【地域別・回答率】※この横線は平均回答率。以下同じ。



※中央と新旭川、神居と忠和については、市政モニターの対象者数が地区別になっていなかったため、回答率はそれぞれ中央と神居に合算した。

図2【地域別・回答数】(人)



(2) 問2 あなたの性別を選んでください。

図3のとおり、男女とも、全体の平均回答率31.7%に対しておおむね均等な回答率であった。

図3【男女別・回答率】

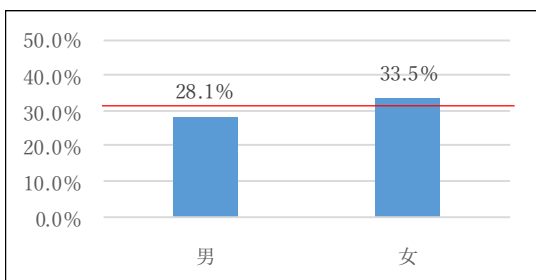
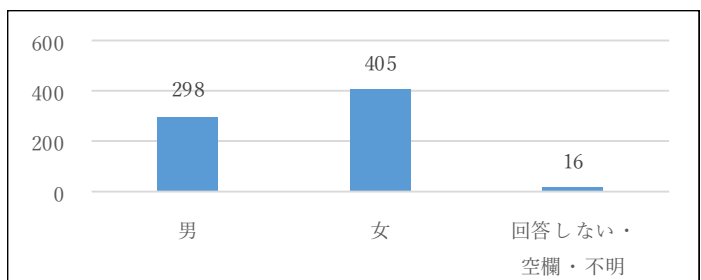


図4【男女別・回答数】(人)



(3) **問3 あなたの年代を選んでください。**

図5のとおり、10代（10.9%）及び20代（17.2%）の回答率がやや低かったものの、これ以外の年代では全体の平均回答率31.7%に対しておおむね均等な回答率であった。

図5【年代別・回答率】

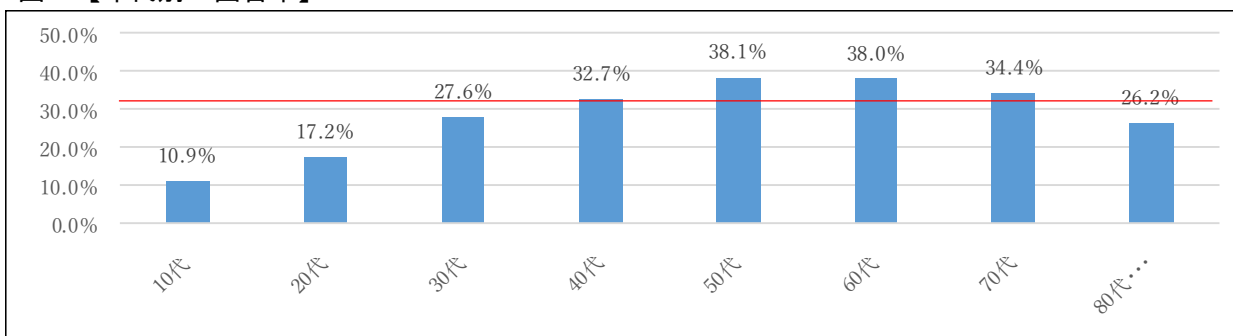
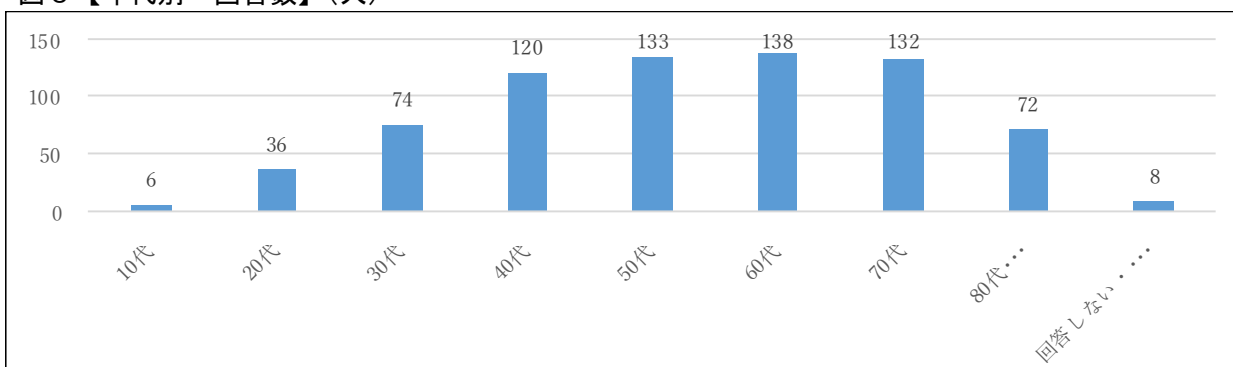


図6【年代別・回答数】(人)



(4) **問4 (1) 過去3年間で利用したことがある施設はどこですか。また、どのくらい利用していますか。(いくつでも)**

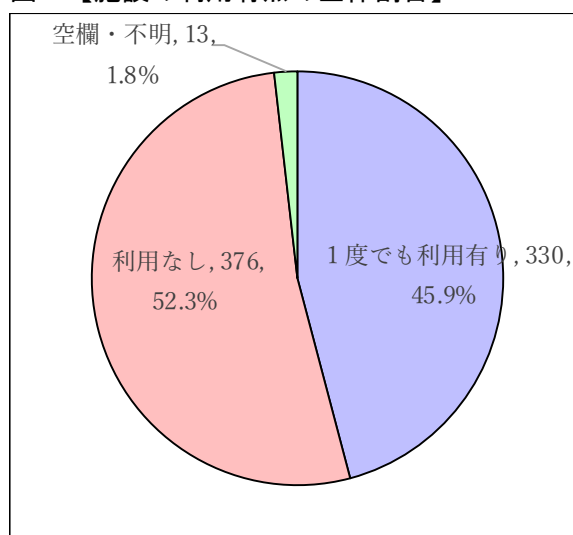
全体（図7）として、「1度でも利用有り」という回答（45.9%）より「利用なし」という回答（52.3%）がやや多い結果だった。

地域別（図8）では、「1度でも利用有り」が「利用なし」を上回るのは、新旭川、東旭川、永山、春光台、神居、忠和及び神楽岡であった。

男女別（図9）では、「1度でも利用有り」と「利用なし」の回答者数に大きな差はなく、利用率（図10）でも大きな差はなかった。

年代別（図11・図12）では、「1度でも利用有り」は70代、60代及び40代の順で回答者数が多いが、利用率では80代、70代及び60代の高齢者世代が高かった。

図7【施設の利用有無の全体割合】



※%表示がない数字は回答数。以下同じ。

図8 【問4(1) 地域別・施設の利用有無の回答数】(人)

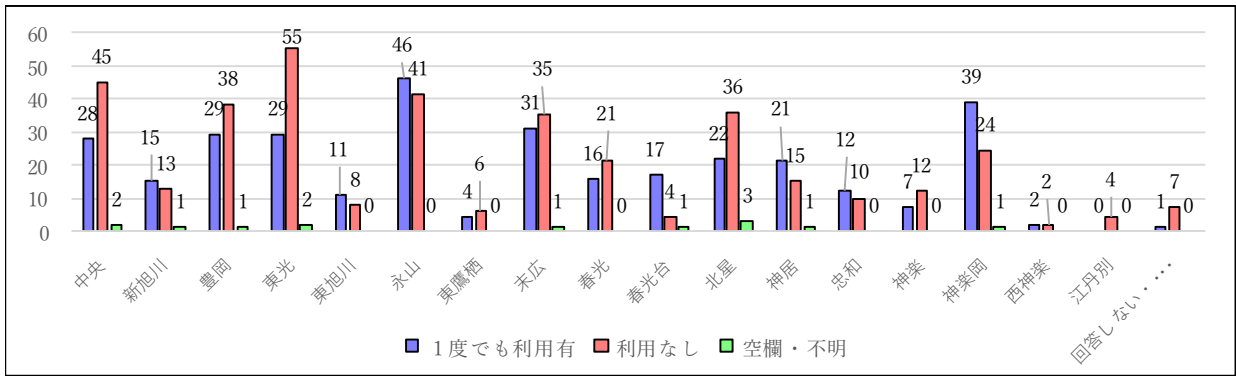


図9 【問4(1) 男女別・施設の利用有無の回答数】(人)

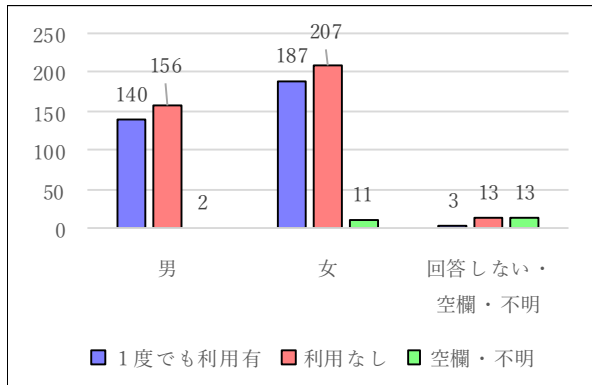


図10 【問4(1) 一度でも利用有の男女別利用率】

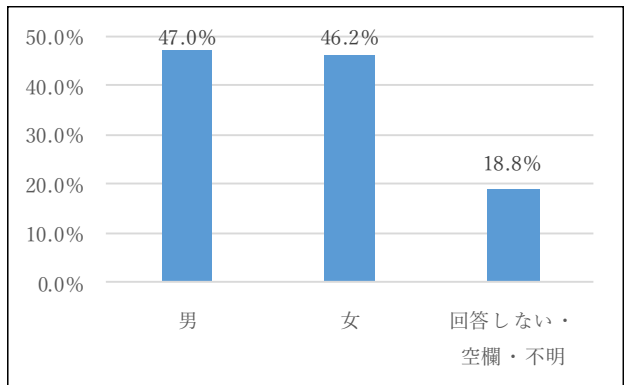


図11 【問4(1) 年代別・施設の利用有無の回答数】(人)

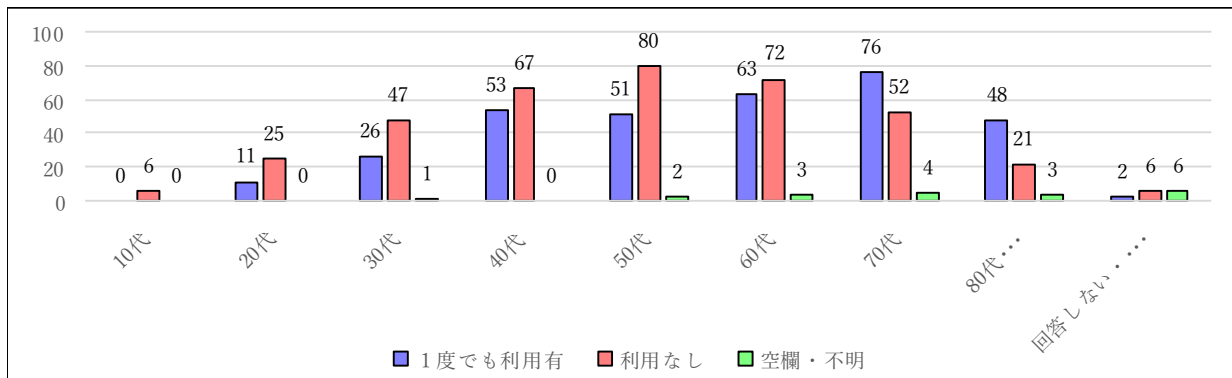
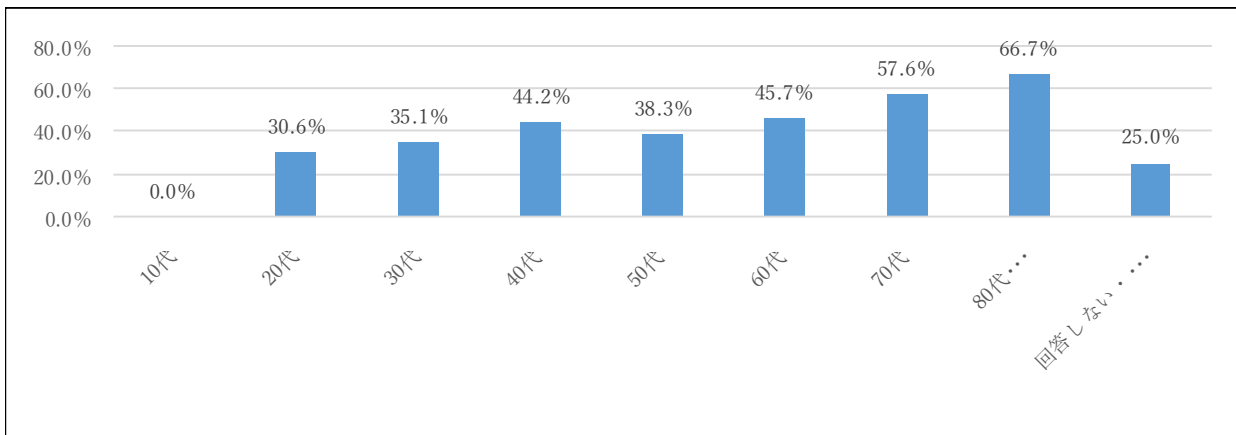


図12 【問4(1) 年代別・施設の利用有無の利用率】

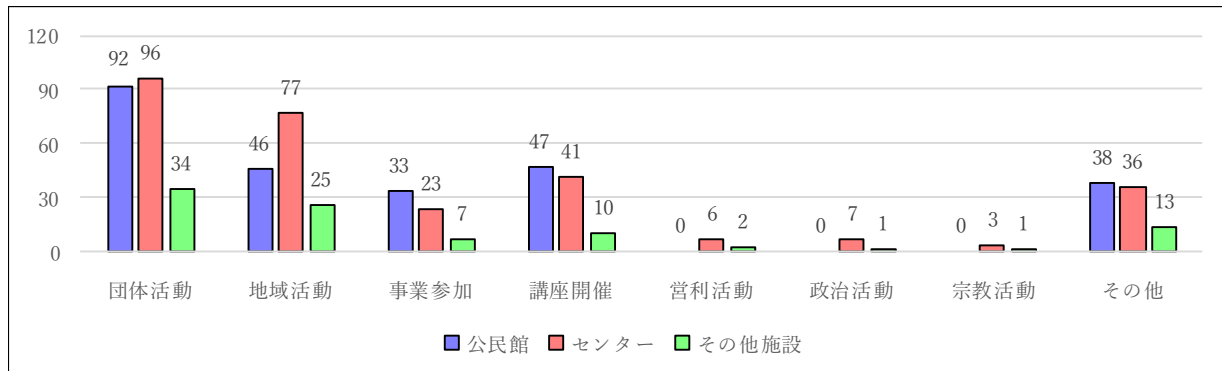


(5) 問4(2) 主な活動内容は何ですか。(いくつでも)

図13のとおり、公民館では「団体活動」と「講座開催」が多く、地区・住民センターでは「団体活動」と「地域活動」が多かった。

また、公民館での利用が制限される場合がある「営利活動」、「政治活動」及び「宗教活動」は、センターなどの制限されていない施設でも少なかった。

図13【問4(2) 施設での活動内容の回答数】(人)



(6) 問5-1 公民館では、社会教育法により、目的によっては部屋を利用できない場合がありますが、これについて、どうお考えになりますか。

図14のとおり、全体として「(利用できない場合) あってよい」という回答の割合は74.3%であり、「(利用できない場合) なくてよい」という回答の割合は14.0%であった。

地域別(図15)、男女別(図16)、年代別(図17)、利用施設別(図18)のいずれにおいても「(利用できない場合) あってよい」という回答が圧倒的に多かった。

特に利用施設別(図18)では、「主に公民館を利用」している回答者だけでなく、「主にセンターを利用」している回答者や、「施設利用なし」の回答者も「(利用できない場合) あってよい」という回答が圧倒的に多かった。

図14【問5-1 目的によって部屋を利用できない場合の全体割合】

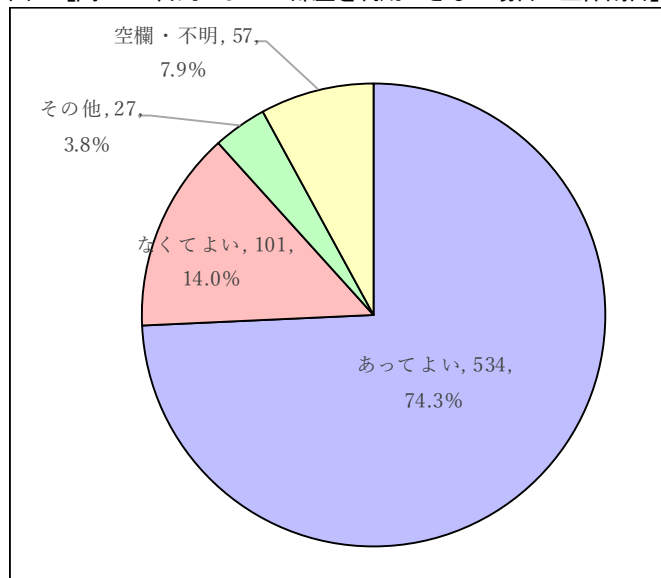


図14から、公民館で社会教育法に基づく室利用の制限があることが広く市民に肯定的に受け入れられており、今後ともこのような制限を維持することが求められていると考えられる。

また、図18から、施設を利用したことがない回答者であっても、「利用できない場合はあってよい」という回答(293人)が圧倒的に多くなったことに加えて、現在、室の利用制限がない施設の利用者も「利用できない場合はあってよい」という回答が多いことから、「公民館には、利用できない場合はあってよい」と考えた回答者だけでなく、特定の施設をイメージせず、集会施設を全体的に捉えてこのように考えた回答者もいるのではないかと思われる。

図15【問5-1 地域別・目的によって部屋を利用できない場合の回答数】(人)

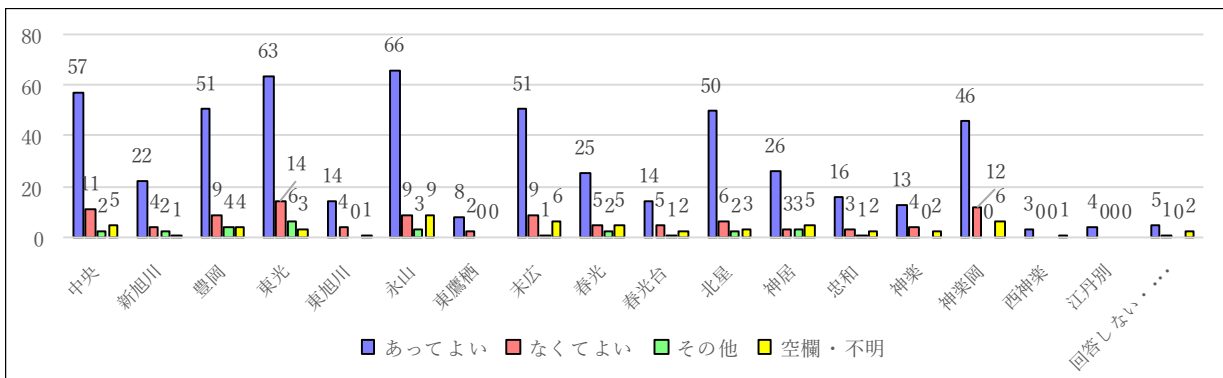


図16【問5-1 男女別・目的によって部屋を利用できない場合の回答数】(人)

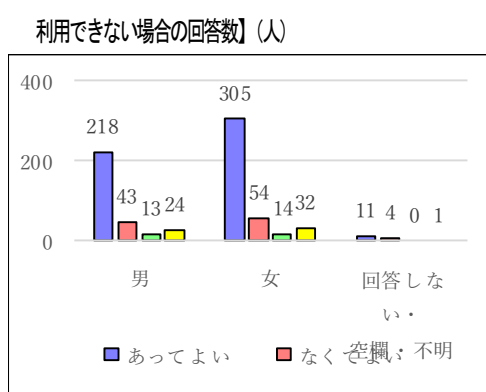


図17【問5-1 年代別・目的によって部屋を利用できない場合の回答数】(人)

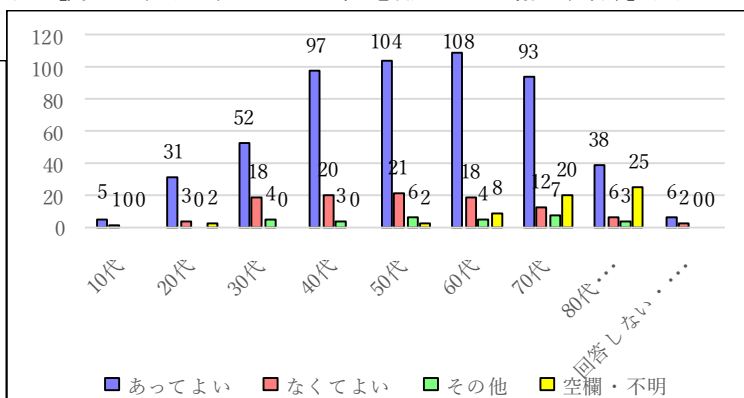
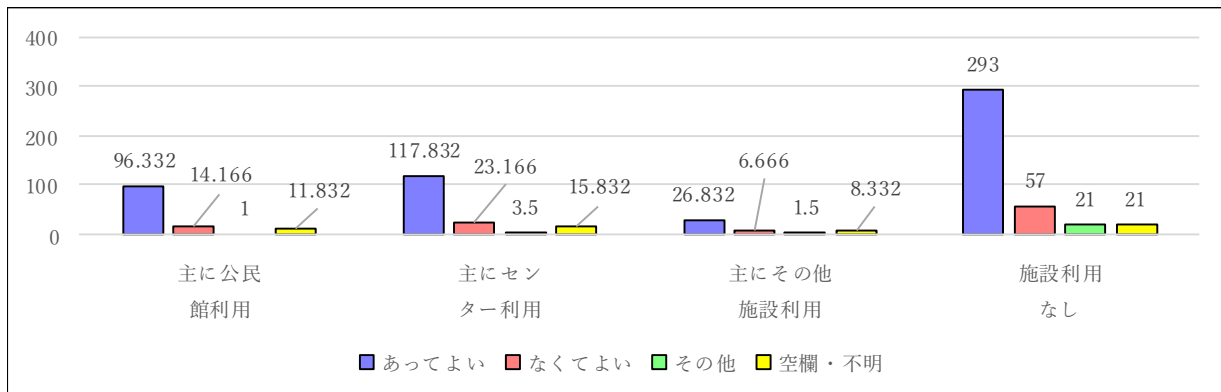


図18【問5-1 利用施設別・目的によって部屋を利用できない場合の回答数】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問5-1 その他の意見】(27件)

利用は教育・学習だけではなく、高齢者や市民活動に応えるよう広く考えて欲しいとするものが2件。「学習開放の場」として利用というものが1件と「足を運びやすい場所」というものが2件あった。また、「政治や宗教目的には使用しない」というものは2件あり、その中でも、非営利団体であれば、金額を徴収する場合でも利用できると良いとしている。

ただ、意見の中で「わからない」としている記入が14件あり、その他に「公民館と住民・地区センターの差異がわからない」というものが3件と、周知不足であるとするものが1件あった。こうした中で、住民・地区センターを区別するよりも、すべての機能を持たせるつくり方をする方が、建物の維持コストを軽くすることにもなるというものがあった。

(7) 問5-2(1) 「利用できない場合があつてよい」を選んだ理由

「(利用できない場合が) あつてよい」という回答は全体の74.3%を占めており、理由として、全体(図19)では、「(社会教育法に基づく)学習施設(として)維持(すべき)」という回答が最も多く、次いで「(利用できない活動との)混在が望ましくない」、「(利用の幅を広げるためには)運用見直し(すればよい)」、「(教育・学習のための)設備・環境充実(させることができる)」の順となった。

地域別(図20)では豊岡、末広で「(社会教育法に基づく)学習施設(として)維持(すべき)」という回答が多く、また、男女別(図21)でも男性の回答者が、年代別(図22)でも50代~80代の回答者が、利用施設別では「主にセンターを使用」している回答者がそれぞれ同じ傾向にあった。

図19【問5-2(1) あつてよいを選んだ理由の全体割合】

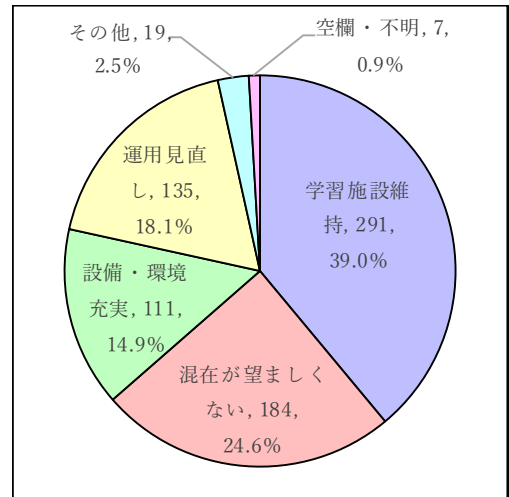
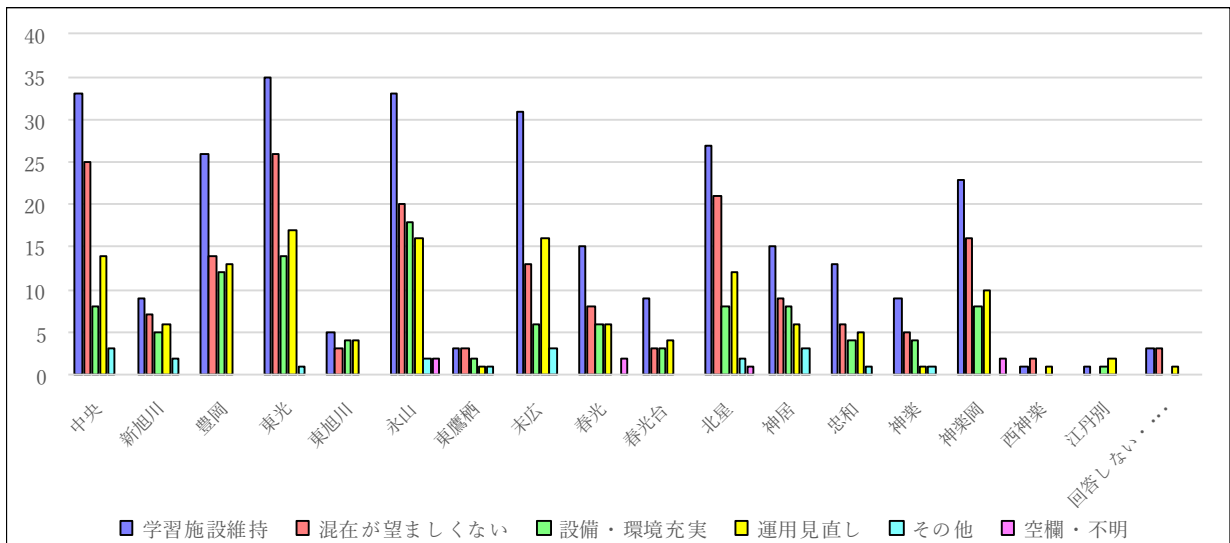


図20【問5-2(1) 地域別・あつてよいを選んだ理由】(人)



※このグラフは、値の表示を省略しました。各グラフの値は集計表で確認してください。

図21【問5-2(1) 男女別・あつてよいを選んだ理由】(人)

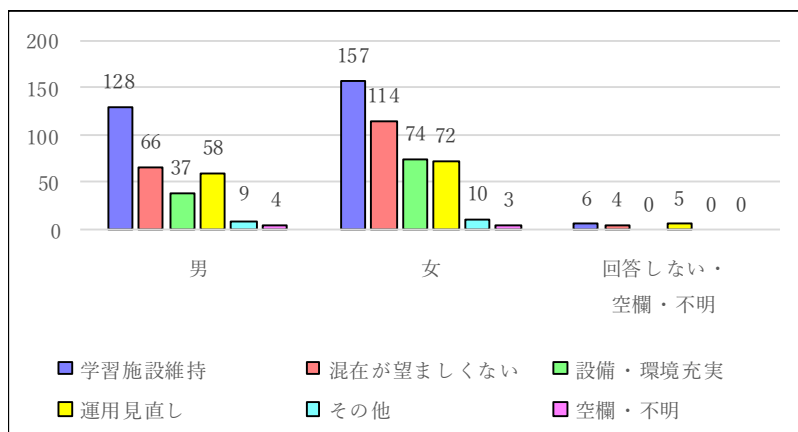


図22 【問5-2(1) 年代別・あってよいを選んだ理由】(人)

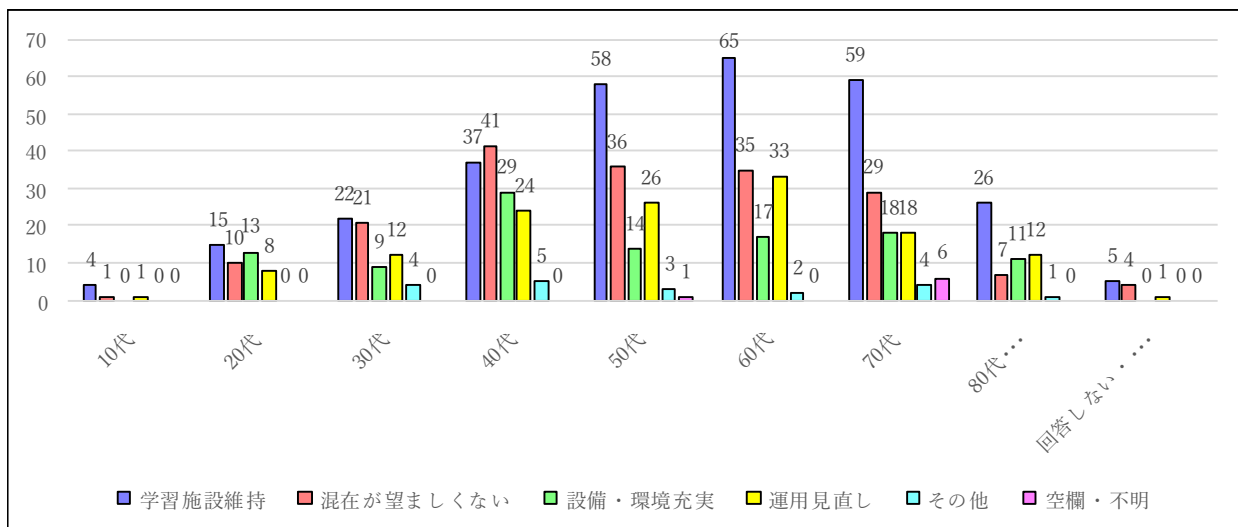
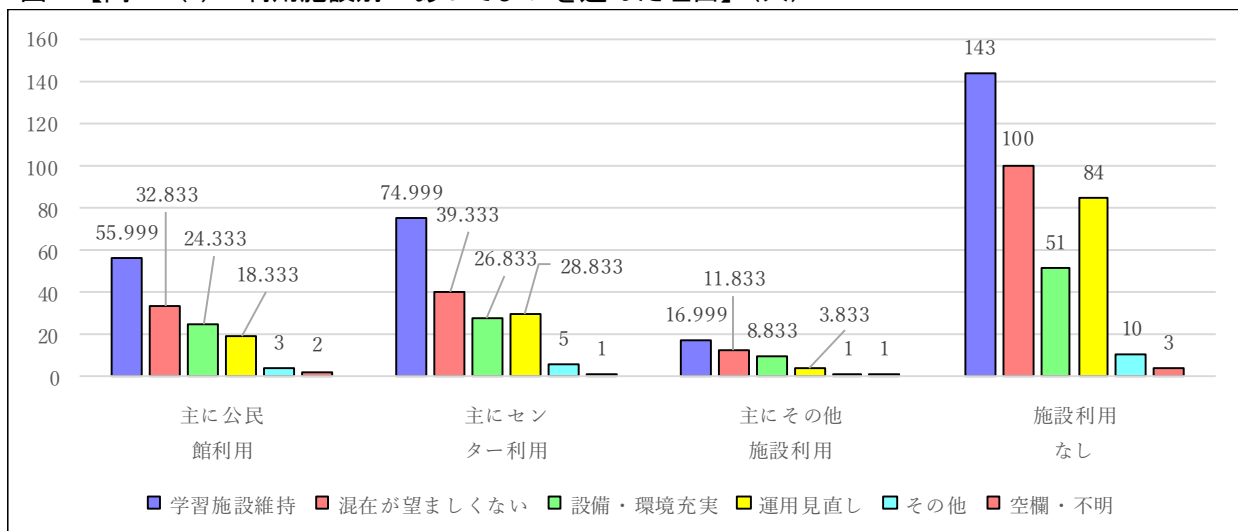


図23 【問5-2(1) 利用施設別・あってよいを選んだ理由】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問5-2(1) その他の意見】(19件)

理由として「社会教育法で決まっているのだから」というものが6件、マルチ商法など反社会的なものや、宗教に関するものなど「特定の団体の専用使用を除くため」というものが6件あった他、子ども食堂や学習支援などの「安心できる子どもの使用」を理由とするものが2件あり、公民館を利用している方から寄せられたものだった。他に無駄な支出や不必要を見直すという意見が2件あり、若者やより多くの方の利用できる機会を持つと良いというものがあった。

(8) 問5-2(2) 「利用できない場合はなくてよい」を選んだ理由

「(利用できない場合は) なくてよい」という回答は全体の14.0%を占めており、理由として、全体(図24)では、「(どの施設も) 同じ使い方ができた方がよい」という回答の割合が66.7%と3分の2を占め、次いで「(利用できない場合がなくなっても) 社会教育活動はできる」, 「地域に公民館しかない」の順となっており、現在、公民館での利用制限をなくした方がいいと考える回答者が一定数あることが分かった。

地域別(図25)では、中央が他の地域に比べて「(利用できない場合がなくなっても) 社会教育活動はできる」という回答の割合が多かった。また、年代別(図27)でも30代、60代の回答者が同じ傾向にあった。

図24【問5-2(2) なくてよいを選んだ理由の全体割合】

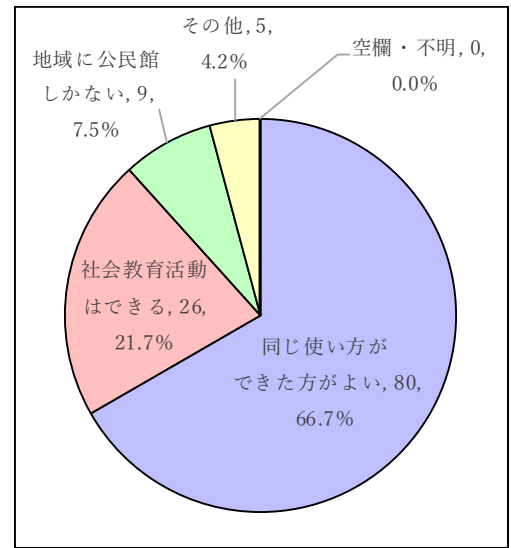


図25【問5-2(2) 地域別・なくてよいを選んだ理由】(人)

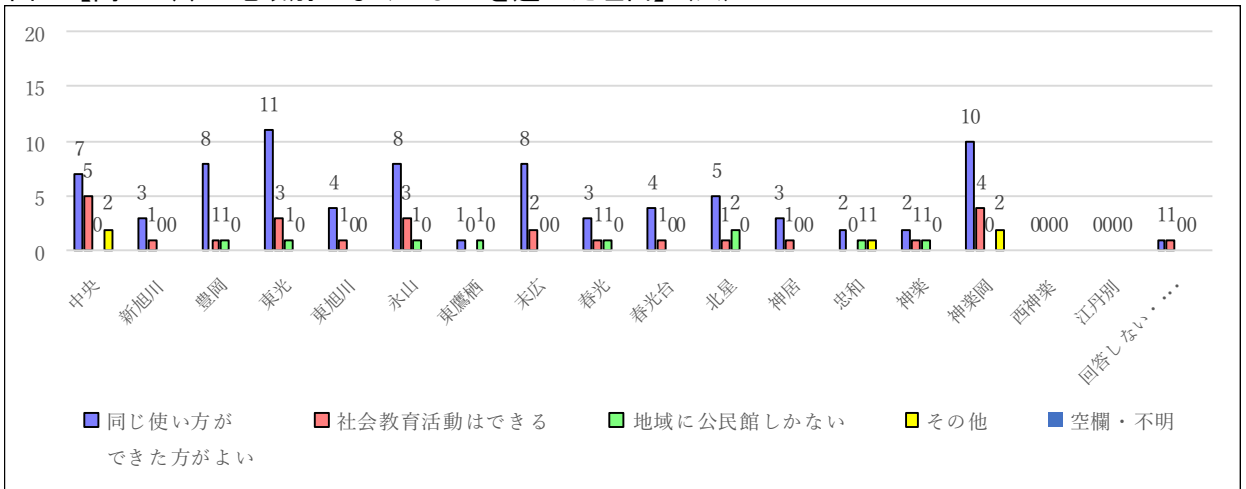


図26【問5-2(2) 男女別・なくてよいを選んだ理由】(人)

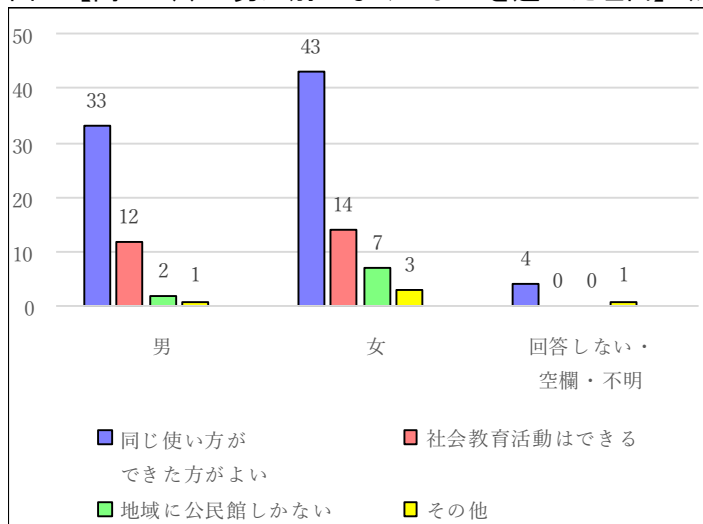


図27【問5-2(2) 年代別・なくてよいを選んだ理由】(人)

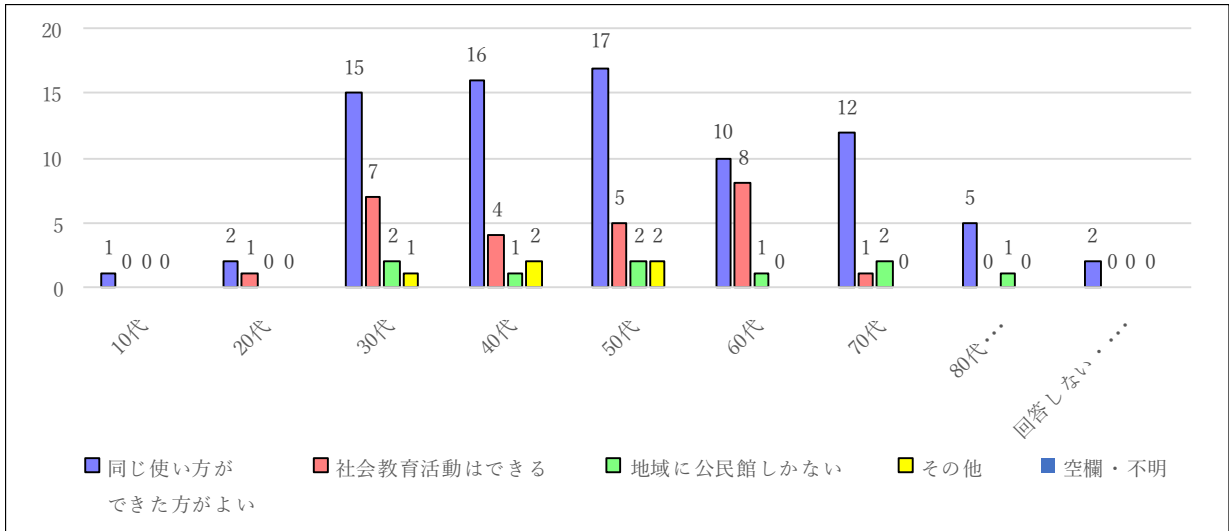
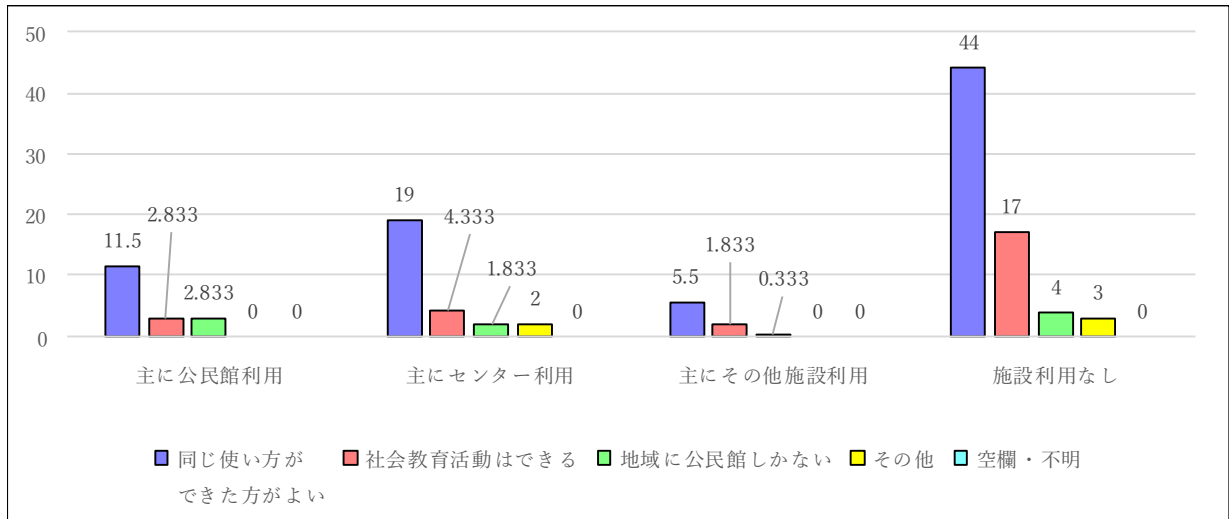


図28【問5-2(2) 利用施設別・なくてよいを選んだ理由】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問5-2(2) その他の意見】(5件)

社会教育法に基づく施設である必要はなく、一部の人しか使わない印象がある。公民館は有効活用されるべきであるし、それが利用料収入にもつながるといった意見が主なものであり、その利用料については、利用者負担を考慮した適正なものであって欲しいというものであった。

(9) 問6-1 これからも全部の公民館を公民館のまま維持するほうがよいか、今ある公民館の一部又は全部を他の集会施設と同じような使い方ができるように見直すほうがよいか、どれがよいとお考えになりますか。

図29のとおり、全体として、「全部維持」という回答の割合が36.9%であり、次いで「全部見直し」が27.8%、「一部見直し」が22.8%であった。

また、問5-1で「(利用できない場合が) あってよい」又は「(利用できない場合は) なくてよい」という回答者がそれぞれ、どの位置付けを選択しているかを集計したものをグラフ化した。(図30)

これを見ると、「(利用できない場合が) あってよい」(534人)の内訳として、「全部維持」は237人で割合は全体の33.0%、次いで「一部見直し」は134人で割合は全体の18.6%、「全部見直し」は126人で割合は全体の17.5%であった。

また、「(利用できない場合は) なくてよい」(101人)の内訳として、「全部見直し」は64人で割合は全体の8.9%、次いで「一部見直し」は20人で全体の2.8%、「全部維持」は6人で割合は全体の0.8%であった。

図29【問6-1 公民館の位置付けの全体割合】

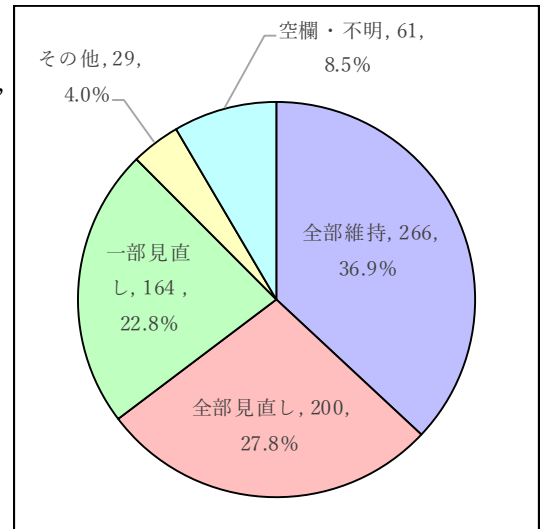
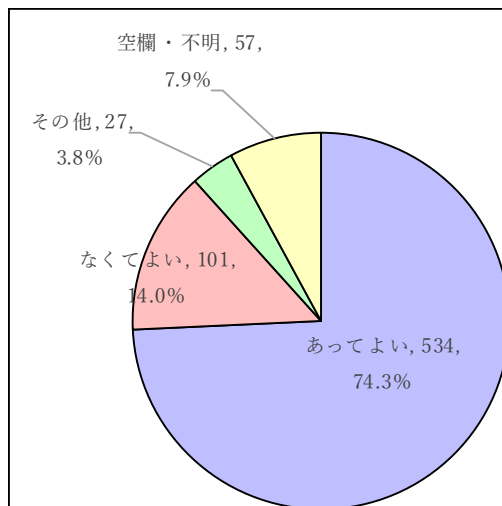
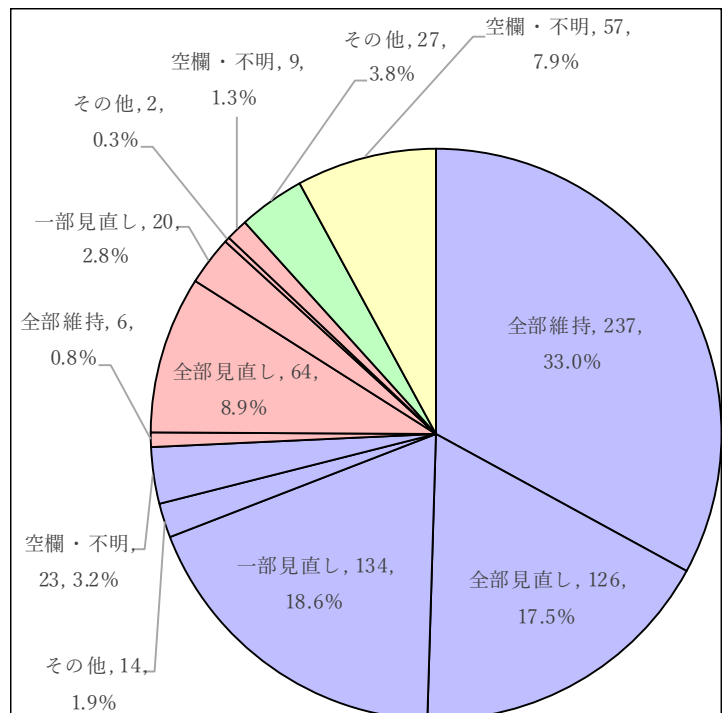


図14【問5-1 目的によって部屋を利用できない場合(再掲)】



※右のグラフは、その他(27, 3.8%)及び空欄・不明(57, 7.9%)の回答にも「全部維持」「全部見直し」「一部見直し」等の回答が含まれているが、省略した。

図30【問6-1 問5-1の回答別・公民館の位置付けの回答分布】



地域別（図31）では、18地域（回答しない・空欄・不明含む）で「全部維持」の回答数が「（全部又は一部）見直し」の回答数を上回ったのは10地域で、（中央、東旭川、永山、末広、北星、神居、神楽、神楽岡、西神楽及び回答しない・空欄・不明）その中でも「全部維持」が「（全部又は一部）見直し」の合計を上回ったのは5地域（永山、北星、神居、神楽、西神楽）だった。

また、「（全部又は一部）見直し」の回答数が「全部維持」の回答数を上回ったのは7地域（新旭川、東光、東鷹栖、春光、春光台、忠和、江丹別）だった。

図31【問6-1 地域別・公民館の位置付け】（人）

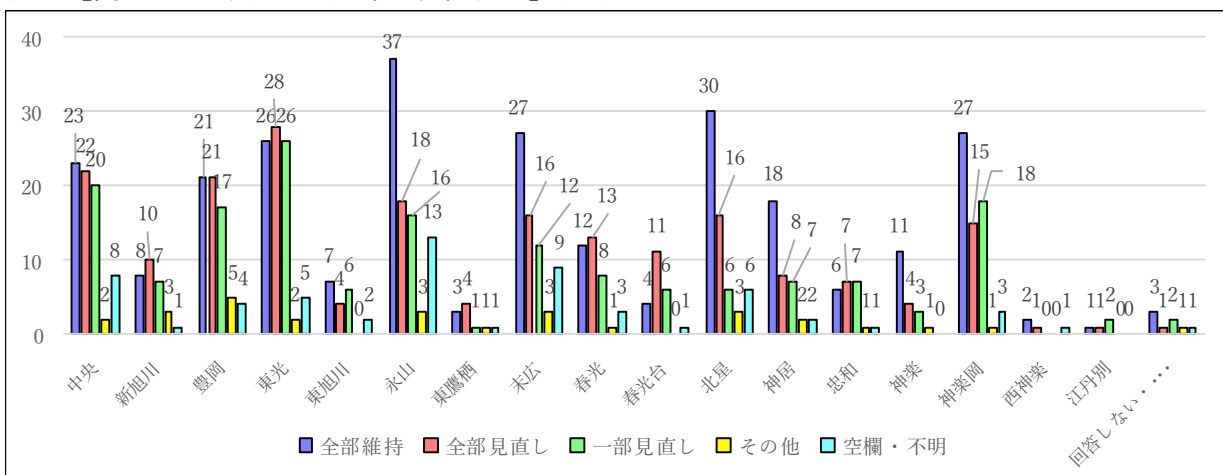


図32【問6-1 男女別・公民館の位置付け】（人）

男女別（図32）では、男女とも「全部維持」の回答が多いが、どちらも「（全部又は一部）見直し」が「全部維持」を上回った。

年代別（図33）では、「全部維持」の回答数が40代、60代、70代及び80代で多く、その中でも70代及び80代では「全部維持」が「（全部又は一部）見直し」の合計を上回った。

また、「全部見直し」又は「一部見直し」の回答が「全部維持」の回答より多いのは、30代及び50代だった。

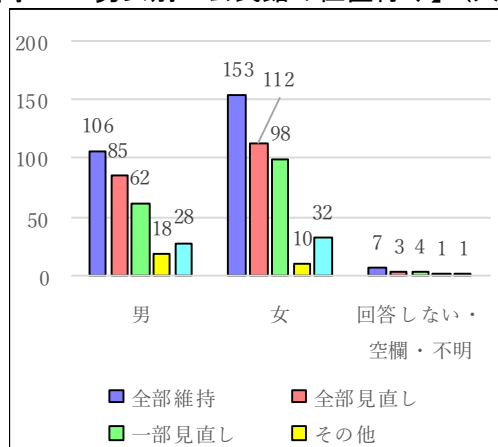
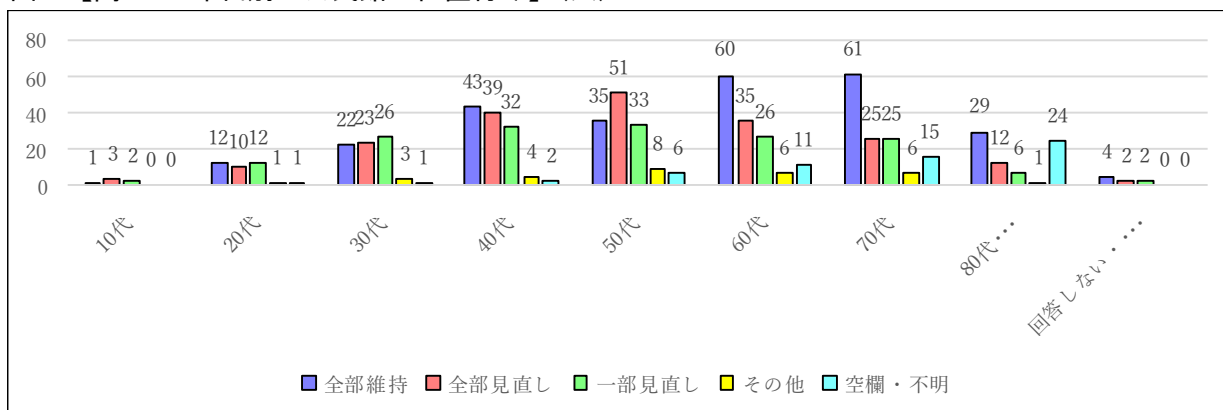


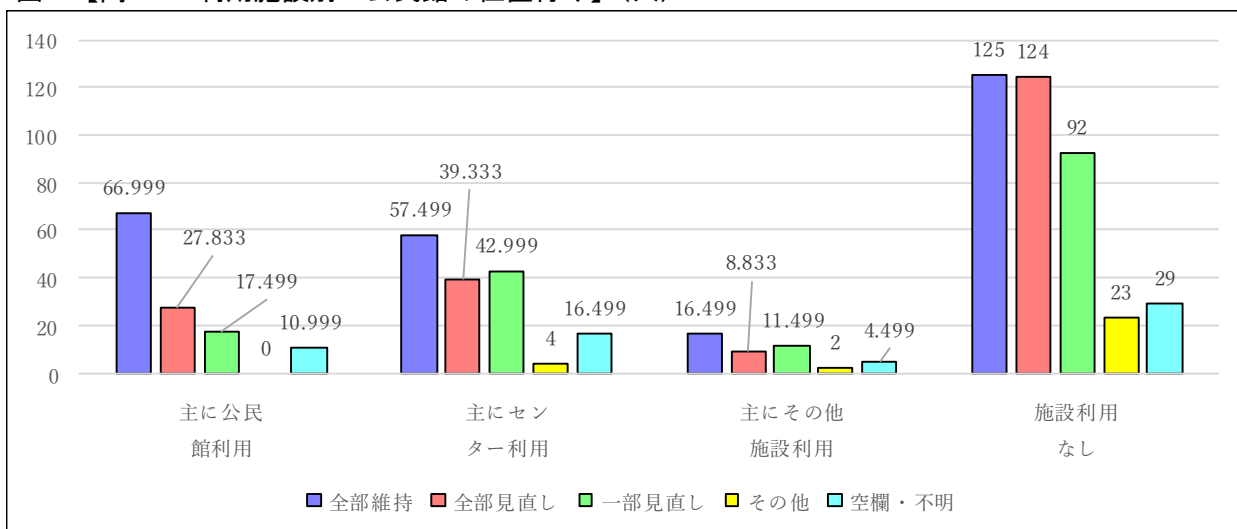
図33【問6-1 年代別・公民館の位置付け】（人）



利用施設別（図34）では、公民館や地区・住民センター等の施設を利用しているという回答者では「全部維持」が多いが、特に「主に公民館を利用」している回答者で顕著であった。

また、「施設利用なし」という回答者では、「全部維持」と「全部見直し」がほぼ同数となった。

図34【問6-1 利用施設別・公民館の位置付け】（人）



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。



「全部維持」という意見が最も多いことは、問5-1の「(利用できない場合が) あってよい」という意見が最も多いことと合わせて考えると、今後も公民館は必要と考える市民が多いことが分かる。

一方で、図29の「全部見直し」又は「一部見直し」という回答（「全部維持」を望んでいない回答）は50.6%となることに加えて、図30にあるとおり、問5-1で「(利用できない場合が) あってよい」と回答した中にも「全部見直し」と「一部見直し」の意見が含まれていることから、「(利用できない場合が) あってよい」と「全部維持」を組み合わせた“位置付けの見直しを望まない”回答者は全体の33.0%であり、そうでない回答者（合計で48.6%※）は、「目的によって部屋を利用できない場合」ということと「公民館の位置付け」ということは、それぞれ別のことであって、結果として現在の公民館のあり方について何らかの変更を求めている、と見ることもできるのではないかと考えられる。

※「あってよい」「全部見直し」17.5%+「あってよい」「一部見直し」18.6%+「なくてよい」「全部維持」0.8%+「なくてよい」「全部見直し」8.9%+「なくてよい」「一部見直し」2.8%=48.6%（その他・空欄・不明の回答を除く）

【問6-1 その他の意見】（29件）

見直しや維持を考えるよりも、予算を含めた運営計画や将来像を市民に示したり、多くの方が使用すよう認知度を上げることが先であるというものが2件、多くの方の意見を聴いて「建替改修」を望むものが1件、区域や維持費、必要性を考えて「統廃合」というものが4件あった。他に一定の利用制限は維持して「運用見直し」というものが1件、公民館は高齢者のためだけにある施設ではないか、というものが1件があった。

また、「わからない」というものが14件あり、この中には利用実態が見えないというものがあつた。

(10) 問6-2(1) 「全部の公民館」「維持」を選んだ理由

全体（図35）としては、「長年親しまれている」又は「団体活動優先の場として維持」という回答がほぼ同数となった。

地域別（図36）では、新旭川、永山、北星で「長年親しまれている」という回答がやや多く、また豊岡で「団体活動優先の場として維持」という回答がやや多かった。

男女別（図37）では、男女とも上の2つの回答がおおむね全体の傾向と同じとなったが、「営利目的の利用なし」という意見は女性の方がやや多かった。

図35 【問6-2(1) 「全部の公民館」「維持」を選んだ理由】

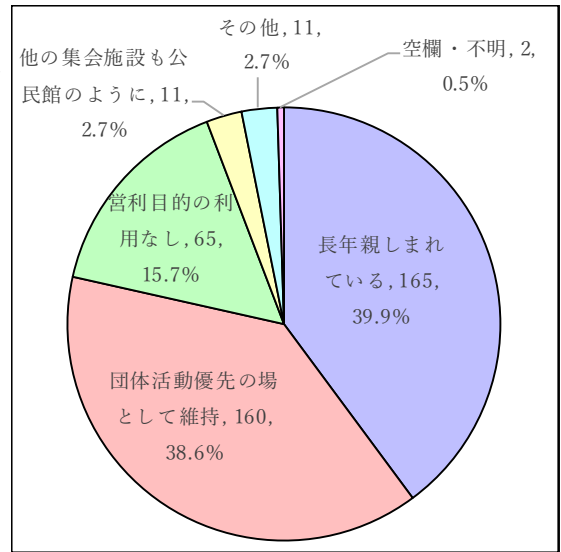
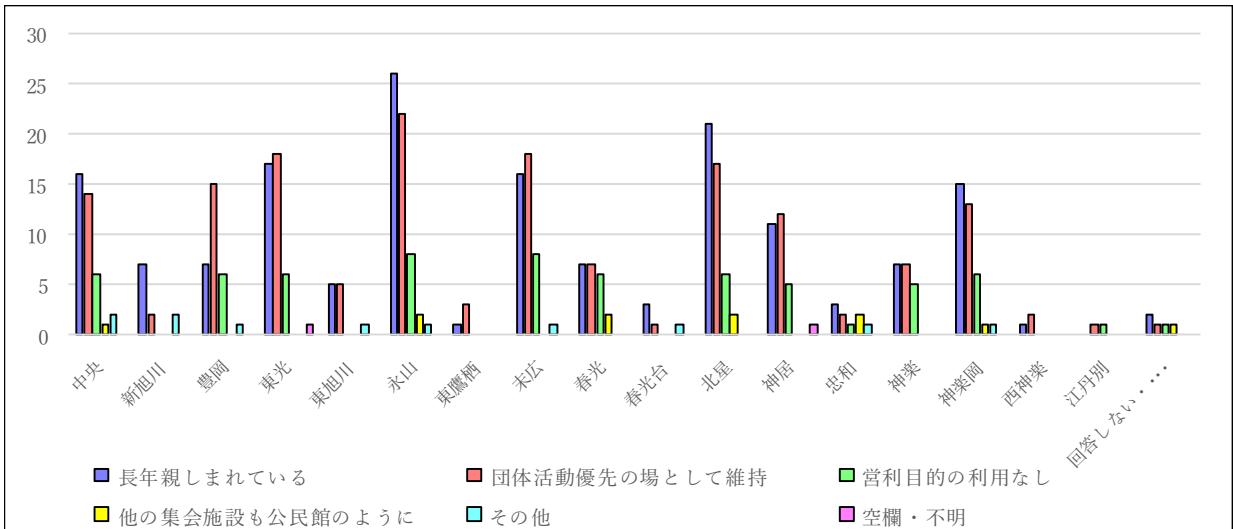
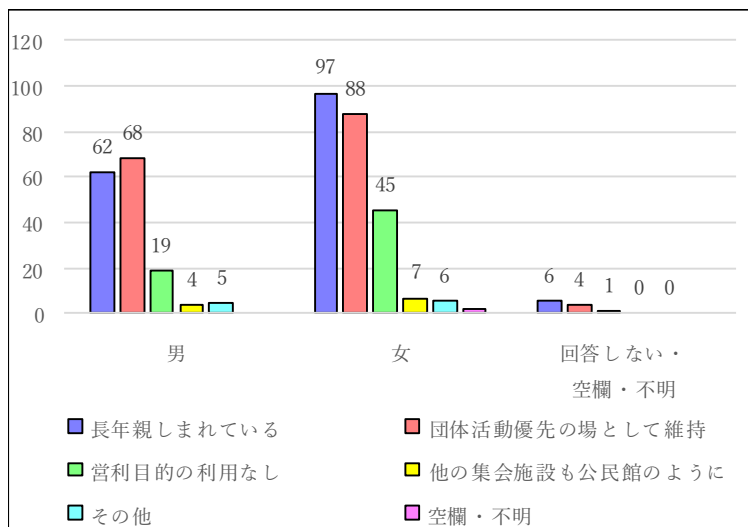


図36 【問6-2(1) 地域別・「全部の公民館」「維持」を選んだ理由】(人)



※このグラフは、値の表示を省略しました。各グラフの値は集計表で確認してください。

図37 【問6-2(1) 男女別・「全部の公民館」「維持」を選んだ理由】(人)



地域別（図38）では、50代及び80代で「長年親しまれている」という回答がやや多く、60代で「団体活動優先の場として維持」という回答がやや多い。また、40代、50代、60代及び70代で「営利目的の利用なし」という回答が他の年代より多く見られた。

また、利用施設別（図39）では、おおむね全体の傾向との違いはなかった。

図38 【問6-2(1) 年代別・「全部の公民館」「維持」を選んだ理由】(人)

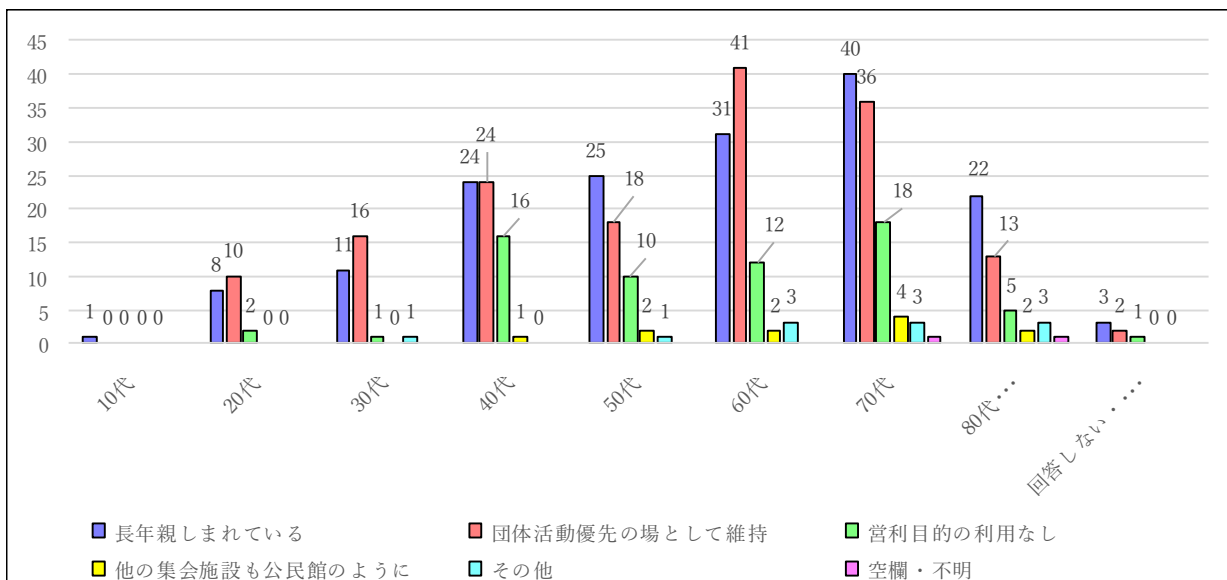
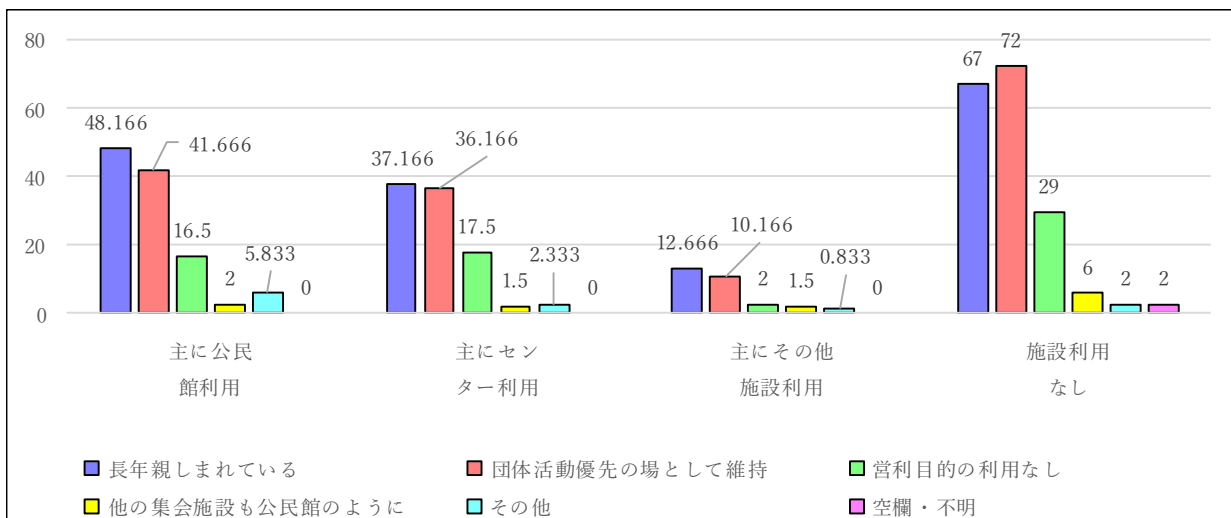


図39 【問6-2(1) 利用施設別・「全部の公民館」「維持」を選んだ理由】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問6-2(1) その他の意見】(11件)

気軽に安価で利用でき、安心して利用でき、親しみがあるからという理由や、近くに施設があると良いなどの意見があり、利用できない制限は、曖昧にせず、例外をつくと混乱するため、統一して考えることが必要であり、ある程度の線引きが必要ではあるが、町内会活動等での飲食は認めて欲しいとの意見があった。これらは、主に公民館を利用している方からの意見であり、8件あった。

(11) 問6-2(2) 「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由

全体(図40)としては、「公民館をより幅広い目的で使用」という回答が最も多く、次いで「公民館事業を他施設でも実施」、「老朽化したときに他施設を利用」の順となった。

地域別(図41)、男女別(図42)、年代別(図43)、利用施設別(図44)のいずれにおいても、おおむねこの傾向に違いはなかった。

図40【問6-2(2) 「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由】

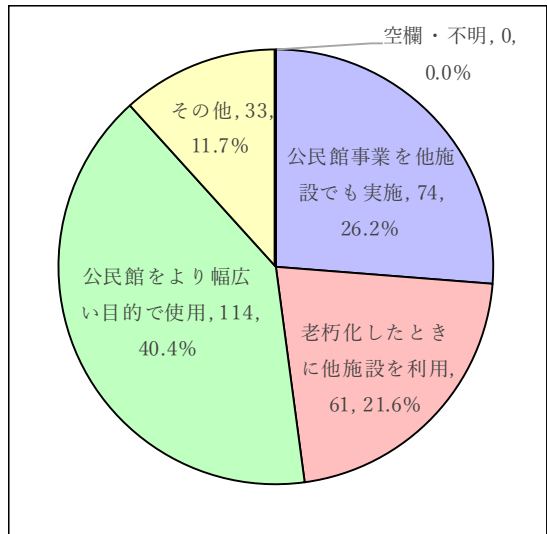


図41【問6-2(2) 地域別・「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)

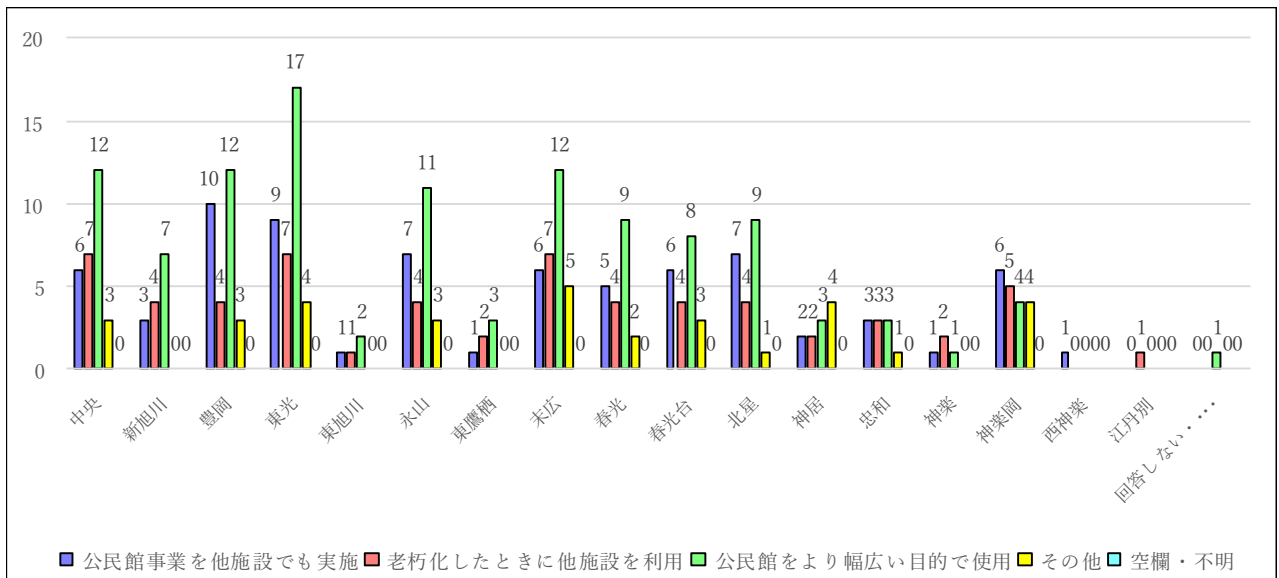


図42【問6-2(2) 男女別・「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)

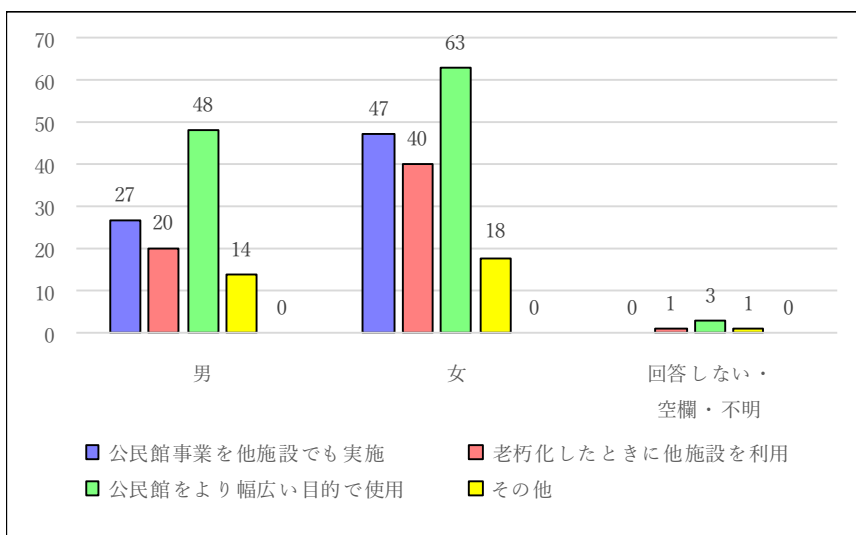


図43 【問6-2(2) 年代別・「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)

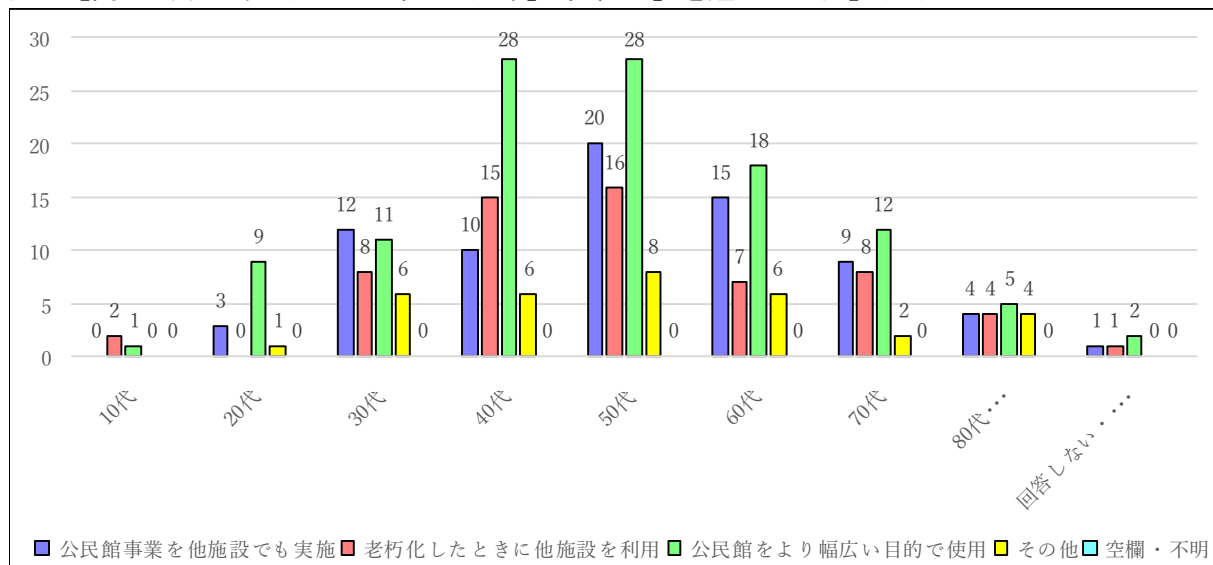
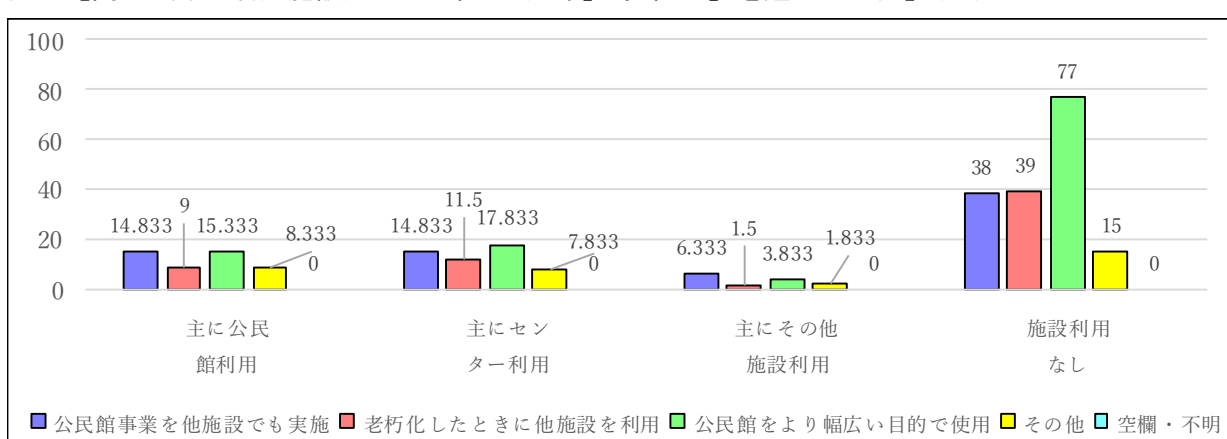


図44 【問6-2(2) 利用施設別・「全部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問6-2(2) その他の意見】(33件)

16件は「運用面の見直し」であり、現在の公民館は、特定の人だけが利用しており、教育活動・地域活動を優先させることは良いが、若い世代利用できる機会をつくるなどして、幅広い利用を目的とした柔軟な運用を望むものであった。

また、公民館と住民・地区センターを別々に存在させる必要性和内容についても周知されていないとし、公民館の機能を維持しつつ、他の集会施設等もその「両方機能を維持させる」のが良い等である。また、「建物」については、人口減少や利用頻度や維持費、人件費などから、統廃合や縮小はやむ得ず、抜本的な見直しが必要であるとするものが、8件あった。

ほかに運営面に関する要望が7件あり、事業の効率化や学習の場としての開放、西地区に公民館の設置を望むものなどであった。

(12) 問6-2(3) 「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由

全体(図45)としては、「公民館しかないなら幅広い目的で使用」という回答が最も多く、次いで「公民館は必要だが幅広い使用施設を多く」、「公民館を全部見直すのは性急」の順で、「自地域の公民館は見直してほしくない」という回答は1件だった。

地域別(図46)では、新旭川、永山、忠和、江丹別で「公民館しかないなら幅広い目的で使用」という回答が特に多かった。また、年代別(図48)でも20代、50代の回答者が同じ傾向にあった。

図45【問6-2(3) 「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由】

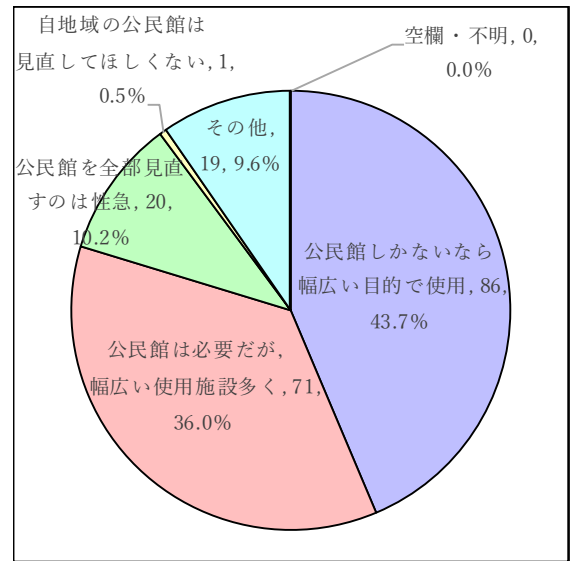
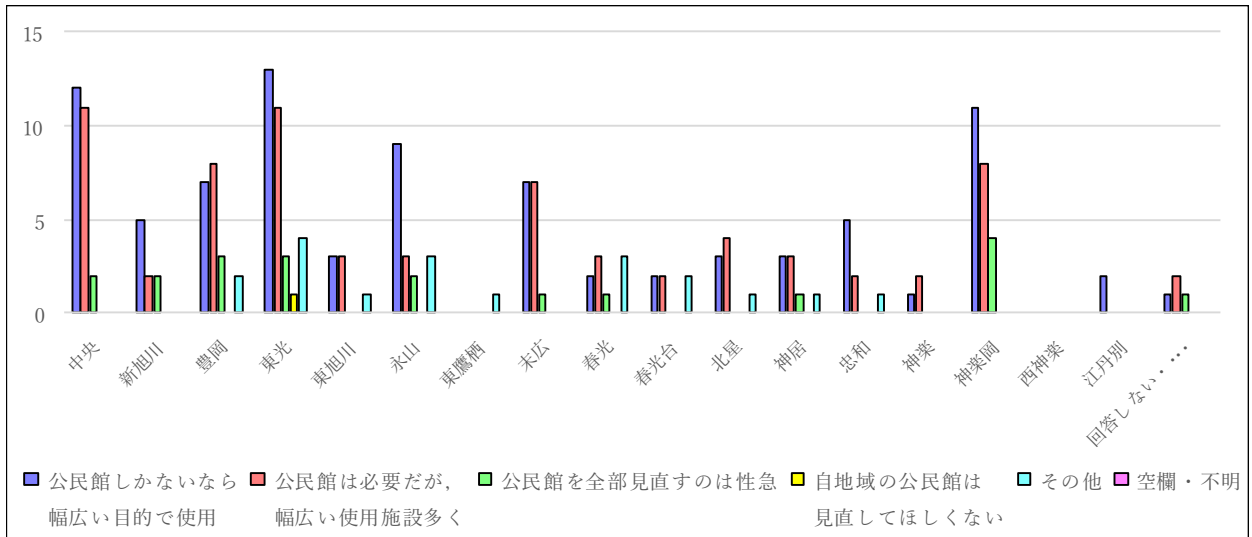


図46【問6-2(3) 地域別・「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)



※このグラフは、値の表示を省略しました。各グラフの値は集計表で確認してください。

図47【問6-2(3) 男女別・「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)

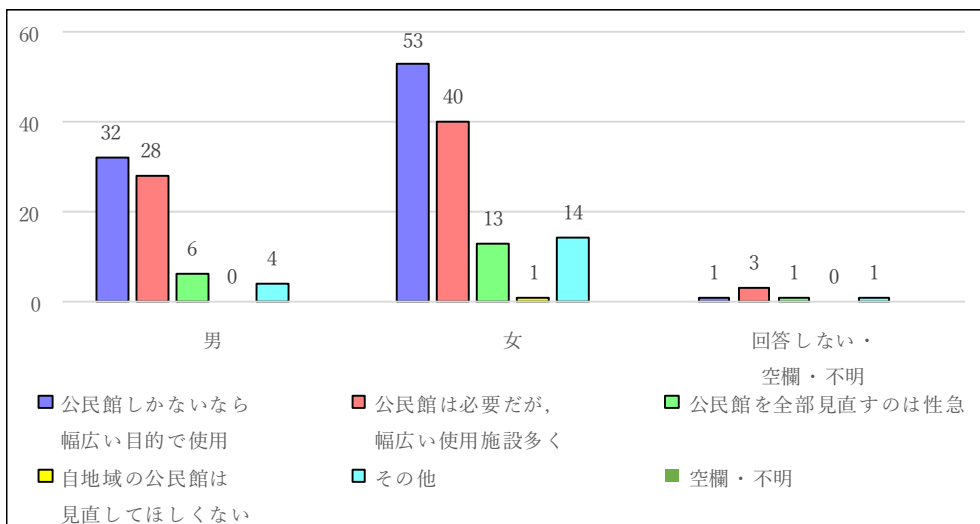


図48 【問6-2(3) 年代別・「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)

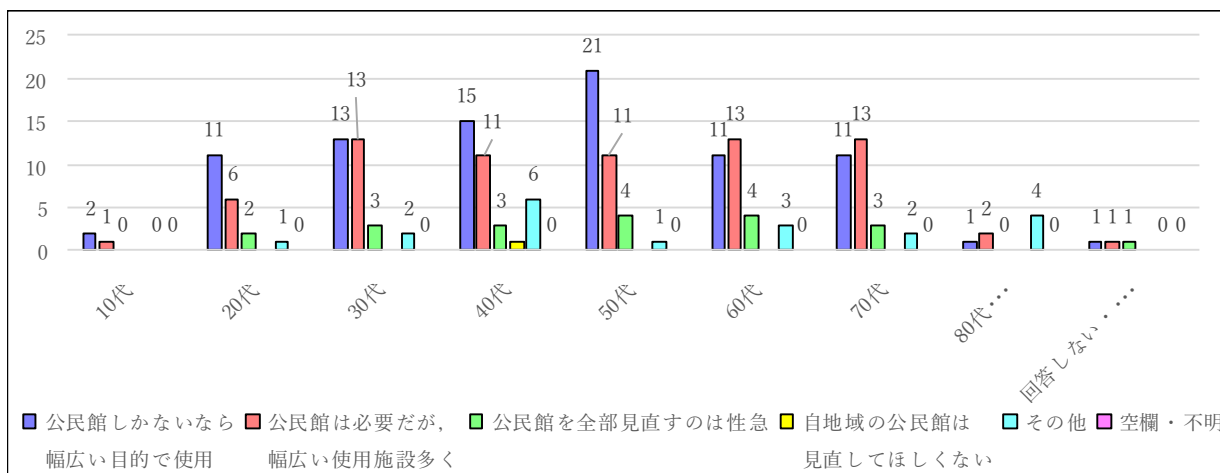
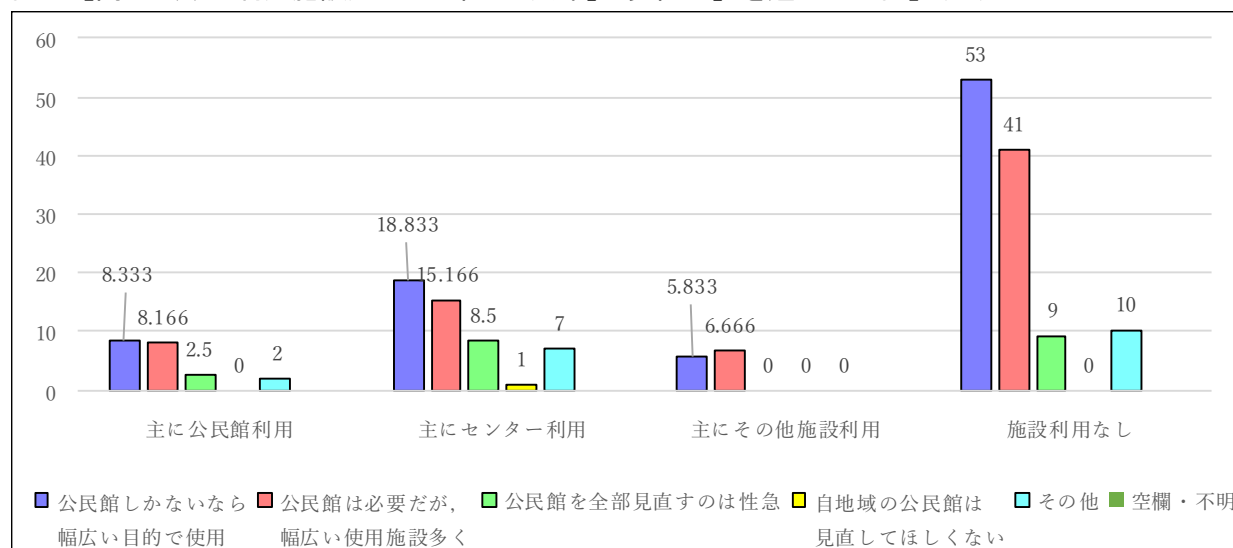


図49 【問6-2(3) 利用施設別・「一部の公民館」「見直し」を選んだ理由】(人)



※複数の施設の使用頻度が同じ場合は回答数を按分したため、小数点以下の数字がついた項目がある。

【問6-2(3) その他の意見】(19件)

利用頻度や建物の老朽化により、維持が難しいためという理由で、施設を集約させる。あるいは、一部を見直しをするというものが10件あった。

また、意見の中には、公民館の魅力がなく、そこで何が行われているかを知る手段が限られている。特定の方が利用しており、とにかく自宅から遠く、気軽に利用できない、などの課題についての記入が5件あった。

その他のものは、すべての公民館に体育館を置き、気軽にスポーツが楽しめるようにというのが2件、近くにある公民館を新しくして欲しいというのが1件あった。